

平和・人権
社会・宗教
生活・信仰
分かち合い

共に生きる

No.37

編集 / 〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 / 瀬下幸弘 FAX093-622-1290

しもつき
霜 月
11
2013

安倍内閣の「秘密保護法案」を止めよう

主権者である国民の目、耳、口をなぜ塞ぐ

ますます危険な状況に日本国民が立たされようとしています。安倍内閣が10月25日午前「秘密保護法案」を閣議決定しました。この法案については、日本新聞協会や日本ペンクラブ、日本弁護士協会や宗教界、ジャーナリストなど幅広い層から反対の声が日に日に高まっています。法案に反対する各界の共通している点は、「国民の目、耳、口を塞いでしまうこと」によって「自衛隊が海外で武力行使できる」道を開いてしまうことです。もう少し細かく言えば、①憲法で保証された国民の「知る権利」を著しく制約するおそれ ②何が秘密か知らされないまま、防衛大臣が「特別秘密」に指定すれば、すべて秘密のうちに行われるおそれ ③秘密

御礼

「共に生きる」紙が発行4年目を迎えることとなりました。読者の皆様の温かいご協力とカンパのおかげです。編集部一同深く御礼申し上げます。有難うございます。

読者もかなり広範囲に広がり「もっと様々なお知らせを掲載してほしい」「カラー印刷は見やすい」「送ってほしい」などの声を多数いただき、追加印刷も度々です。微力ではございますが、これまで以上に読者の皆様にご愛読いただけるよう、真摯に努力してまいります。

「共に生きる」編集部一同



やがて言論の自由が奪われ権力者の思い通りの政治がおこなわれる秘密保護法は絶対通しはならない

イラスト/西山 進

ときのことば

非暴力は、人間に与えられた最も偉大な力です。非暴力は、人類の知恵が創りだしたどのような破壊の兵器よりも、力あるものです。

真実と非暴力を個人的生き方だけでなく、人間の集団、共同体、国家の在り方としなければなりません。

マハトマ・ガンジー

11月のお知らせ

11月は、様々な集いがありますので、3ページに紹介。

援助修道会 修道院より

11月11日:イチイチ祈りの会
場所は修道院聖堂、午後7時から。
どなたでもお出でください。



福岡教区難民移住移動者委員会主催

10月20日(世界宣教の日)

国際ミサに

総勢250人超

大名町カトリック教会



午後1時半からのオリエンテーションと聖歌の練習の後、十字架とマリア像を掲げて聖堂から駐車場を一周しての参加者全員によるマリア行列、それから聖堂で宮原司教司式のミサが行われました。ミサは日本語、英語、タガログ語、スペイン語を織り交ぜて進められました。奉納では、いくつかのグループの歌や踊りが披露され、北九州地区は神様を賛美する「オーハッピーデー」を会場の皆さんと共に楽しく歌いました。

参加された方には、記念としてロザリオが配られました。



〈寄せられた感想です〉

「とても楽しい時間を過ごすことができました。」

「国籍を超えて神様の下に一つになり、交わりの体験ができて感謝します。」

「もっと多くの人がこのような時間を共有出来ればよいなと思います。」



はじめての戦争展に触れて

黒崎ひびしんホールで開かれた「平和のための戦争展」を見学しました。(10月18日～20日)

戦争時の遺品、従軍慰安婦の詳しい展示、南京事件のこと、北九州の空襲、原爆と原発、現在の自衛隊資料…実物を見たり、実際の写真を見ることで、何がおこったのかがよくわかりました。なかでも、旧日本軍による従軍慰安婦問題の展示で感じたことは、政府やマスコミ報道は「慰安婦問題では、国も費用を支払っていて謝罪もしている。」とっていますが、国家の法的責任を否定しています。政府の償いはまだ終わっていないことを学びました。「チャイナシンドローム」や「映画X年後」を見て、原子炉の危うさやピキニ水爆実験での第五福龍丸以外の被爆船と被爆者たちのことも知りました。青い空合唱団の歌もよかったです。入場無料もよかったです。(Ka)



書籍の案内

回勅 パーチェム・イン・テリス (地上の平和)

新訳

冷戦下に米ソ仲介に尽くした教皇が、その死の直前に書き上げた社会回勅

人類家族最大の関心事、善意あるすべての人が共有する深い切望
——世界平和の達成

ペトロ文庫 560円+税
編集部にも少し有ります。

回勅 パーチェム・イン・テリス
——地上の平和

教皇ヨハネ二十三世



この度、平和憲法と世界秩序を危殆に貶めかねない昨今の情勢を憂い、小著を緊急出版いたしました

西山俊彦著(カトリック大阪教区神父)

「平和憲法が平和への道、改憲は戦争への道」
—わたしたちが、核戦争の加害者とならないために—
定価 700円

- 郵便局払込表に、送付先住所、氏名、希望冊数をご記入の上、実費(700円×冊数)をお振込下さい。
口座記号番号 00900-7-272008
加入者名 靖国神社合祀取消を実現し平和憲法を護る会
- 現金書留にて実費を下記までご送金ください
〒562-0031 大阪市箕面市小野原東3-5-19 西山方
靖国神社合祀取消を実現し平和憲法を護る会

11月 各種取組紹介

◆11月3日(日)

福岡市一【2013憲法フェスタIN天神】
「壊すな憲法 活かそう九条」福岡国際ホール14F
参加費 500円 ……11時
(主催/九条の会福岡県連絡会)

北九州市一【憲法労働法制を考える集い】
市立生涯学習センター3F(小倉北警察署隣)
資料代 300円 ……13時30分
(主催/憲法改悪反対北九州共同センター、北九州地区労連他)

◆11月4日(月)【平和講演と語らい】 無料
西南KCC(小倉北区大田町14-37) ……14時
平良 修 牧師(沖縄県)講演
「沖縄という鏡を通して見える日本」
(主催/「キリスト者・九条の会」北九州)

◆11月9日(土) “慰安婦”問題解決に向けて
下関細江カトリック教会 14時～16時30分
講師:山下明子さん 参加費500円
アムネスティインターナショナル日本・「慰安婦」問題
チームコーディネーター、同志社女子大学講師
(主催/日本とコリアを結ぶ会)

◆11月10日(日) さよなら原発九州沖縄集会
福岡市中央区舞鶴公園 10時～ライブ
12時45分～本集会(後、平和行進)
(主催/さよなら原発九州沖縄集会実行委員会)

◆11月10日(日)～11日(月) 北九州関門ACO黙想会
下関労働教育センター

◆11月11日(月)イチイチ祈りの会
黒崎援助修道会 ……19時

◆11月12日(火)社会福音部会 アドラック ……19時

◆11月17日(日) 大名町教会 ……14時
カトリック正義と平和全国集会実行委員会

◆11月21日前後 北九州信徒協だより35号発行

◆11月23日(土)キリスト者九条守りたい
西南KCC(小倉北区大田町14-37) ……14時
「ミンダナオの風」講演会
講師/松居友さん、松居陽さん
ミンダナオ子ども図書館

◆11月24日(日) 虹の会
カトリック黒崎教会 ミサ後～

◆11月30日(土)
下関市一【にんげんをかえせ上映会】
10フィート第1作「にんげんをかえせ」上映会
被爆者が語る「被爆者として、いまを生きる」
下関市民会館中ホール 参加費無料 ……14時
(主催/10フィート映画を上映する下関市民の会)

北九州市一【福島原発事故の真相】
お話 木村俊雄さん(元東電技術者)
毎日西部会館5F(小倉北区紺屋町13-1)
無料 ……13時30分開場 ～14時開演
(主催/原発なくそう九州玄海訴訟北九州地域原告団)

分かち合のひととき

虹の会

10月27日 12名参加

「それぞれに与えられた場所で、それぞれの役職、担っている役割を徹底的に生きてみてください。殉教とは過去の話ではありません。今なのです。それが、私たちが殉教者に学ぶ意味なのだろうと思います。」

長崎大司教区古巣馨神父様講話CD『ペトロ岐部と187殉教者』(ある恵みの日)を聴いて分かち合いました。

63年のうちの最後の半分、33年間を精神病院で暮らした島原教会のサカキミネオさんの言葉「自分の都合で生きている間は、私の心は穏やかではありませんでした。苦しかったとです。自分の生きがいか、自己実現とか、そういうことを言っている間は、私の心はいつも不安でした。でもこのごろ、やっと神さまの都合のことを思うように

なりました。そうしたら、とっってもいま、生きやすくなりました。」に「このような衝撃を受けたのは初めてでした。金槌で頭を殴られるという言い方をしますが、その時に初めてその意味を知りました。そして、私は泣いて司祭館に戻りました。」と話す古巣神父様に多くの方が共感しました。

参加者其々の信仰生活を分かち合い豊かな時間を過ごすことができました。

次回は11月24日(日曜日)です。どなたでもご参加ください。

平和講演(2013年6月27日)シリーズ全9回

ポルトガルの日本最初の根拠地④

秋吉久紀夫

日本に伝来したキリスト教カトリックも、西国の大名の少なからずの者が、貿易の利益を求めるために布教をゆるし、自らも信徒になった。例えば薩摩の島津氏、平戸の松浦氏や、島原の有馬氏は宣教師をかかれらの貿易の目的のために利用した典型的な権力者たちであり、大友宗麟や大村純忠の入信も貿易と無関係でなかったことは明らかである。かれらはポルトガルから鉄砲や火薬などの武器を手に入れることを切に望んでいたのである。しかし同時にポルトガルの商人たちは宣教師に便宜を与えると共に、その名を借りてより多くの利権を獲得しようという殖民地収奪戦を展開していたことは否定できない。

三、ザビエルの宣教活動

先ずザビエルの経歴を述べてみ

よう。フランシスコ・ザビエル (Francisco Xavier) は、本名をフランシスコ・デ・ヤスー・イ・ハビエル (Francisco de Yasu Xavier 1506~1552) と言い、スペインのカトリック司祭でイエズス会創立期の会員の一人。インド、東インド地方、日本の布教活動を开拓したため、「東洋の使徒」として知られている。一五〇六年四月七日、現在のスペイン北西部のフランス国境に近いナバラ王国のザビエル城で生まれた。ザビエルの生家はバスク語を話すナバラ王国の貴族であった。この王国はザビエルがまだ十歳の時に、スペイン軍に攻撃され滅亡した。その時、彼の父は自殺した国王の後を追ひ、所領も奪われてしまった。かれらが国籍がスペイン人でありながら、スペイン国家に一生、背を向けつ

づけた理由はここにある。彼は若くして聖職者を志し一九歳でパリ大学に進学、聖バルベラ学寮に入居。この学寮はポルトガル王の保護下にあり、ポルトガルとスペインの学生が住んでいた。彼はそこで後にイエズス会創立会員の一人となったベトロ・ファールと友となり、また少し年長の学生で、同じくナバラ王国の出身者であるシングナチウス・デ・ロヨロと同じ居した。彼が後にイエズス会を創立し、その初代総長となったイグナチウス・デ・ロヨロであった。一五三〇年、ザビエルはファールと共に哲学課程を修了し学芸学士となった。ザビエルとファールは、イグナチウスが創立したイエズス会の最初の六名の中の会員となった。一五四〇年三月、ポルトガル王ジョアン三世は広大な東洋のポルトガルの殖民地への宣教活動のために、教皇パウルス三世にザビエルとシモン・ロドリゲスの派遣を申請、ザビエルは一五四一年四月七日、あの総督マルチン・

アフォンソ・デ・ソーザと共にリスボンを出航、モザンビークを経て一五四二年五月六日、当時ポルトガル領であった東インドの首都ゴアに到着。一五四五年までこの一帯で宣教活動をしてきたが、さらに東方のマラッカに赴いた。ここで五年前に初めて日本の薩摩藩領の種子島に漂着したポルトガル人フェルナンデス・ピントに伴われてやって来ていた日本人の武士ヤジロウ(池端弥次郎)ら三人に出会った。ザビエルはヤジロウの語る日本の状況に、大いに興味を引かれ、とりわけ彼の知識欲と、彼の発する問いかけは、彼を驚嘆させた。彼はヤジロウの人格と才能に完全に魅せられたのである。ザビエルが初めてマラッカに留まったのは僅か八日間であったが、その間に彼は日本についての能うる限りの話を聞いた。そして一週間後の一五四六年一月二十日に、ローマのイエズス会士に次のような手紙を送っていた。(次に続く)

★ アムネスティ下関訪問 ★

アムネスティ下関グループは2ヶ月に1回、定例会を開催しています。10月5日(土)は下関市民活動センターで、会員のアシュリーさん(22才)がスコットランドの話をしてくださいました。(8月11日、平和の集いで外国籍信徒として祈りをされた方) イングランドの国旗の意味、イギリスから独立するかも知れないこと、美しい自然のある北の地方などを紹介しながら、大学で法律の勉強をされたそうです。大学では特に人身売買についての人権



に興味を持ち、人権の弁護士になることが自分の夢だと語っていました。現在、行橋市の県立京都高校でALTとして働いています。行橋に来てすぐにインターネットで近くのアムネスティグループを探したら下関グループを見つけたとのことでしたが、これは、細江カトリック教会におられた中井淳神父が下関グループをネットで紹介した直後だったこともあり、偶然のできごとに参加者は驚いていました。この日は17人の参加で、アシュリーさんの話の後、福島原発で避難を余儀なくされた方たちのこと(政府による棄民政策)、ヘイトスピーチ問題などを意見交換しながら、アムネスティの人権に対する取組も聞きました。次回/12月7日(土)14時 下関市民活動センター

日本漫画家協会
日本漫画家会議



にしやま すずむ
西山 進 さんから



行ちあんりハッコウの
汚染対策

どうもこの国の政治はよくありません。いい加減目を覚まして、おしまいにしないと、あらぬ方向に走り出しそうで心配です。『俺たちは死ぬ

から後は君たちでよろしく』こんな勝手なことではできませんよね。広島、ナガサキに原爆が落とされるまで戦争を続けた私達と、戦後の繁栄ということで、沖縄を忘れ、原発の汚染水で大平洋が死に掛かっているのに無関心。なすがままに金儲けに奔走している大金持ちたち、自公の権力は、賞味期限と同時に歴史認識を忘れた挙げ句の『孤立死』か、哀れというよりおろかなり。いよいよ政治が動き始めます。ふんどしをしめてこの流れを変えましょう。

(9月2日に届いた手紙より)

ツイッター

“大観峰”初めてです (みな)

阿蘇山は何度か行ったことがありますが、阿蘇北外輪山の大観峰は初めてでした。この日は霞がかかったような天気でしたが、九重連山を一望できました。太古からの時の雄大さに感動し、思わず手を合わせました。



幸せの糸電話 (N)

もうすぐ妊娠10ヶ月目になります。まだこの世には誕生していない“Rくん”は、声は発しなくても胎動というサインで毎日自己主張しています。

ある日、“Rくん”の父がお腹に耳を当てて声をかけていました。そこで私の声も“Rくん”に届いているかなと思って、手作りの糸電話を作りました。「おはよう」「今何しているの〜?」返事をするかのように時々お腹からニョロっと体を動かす“Rくん”です。“Rくん”の父にもお腹に手を当ててもらおうと「あっ、返事した!」と言いながら父親の練習をしています。赤ちゃんの力は本当に凄いですね。ただいるだけで周りの人を幸せにしてくれます。予定日まであとわずか、その日が待ち遠しいです。



CDアルバム「幸福の星」 ～忘れないで、被災地に生きる～ が 発売されました。

—歌に託すアントニウス・ハルノコー神父(岩手県・大船渡教会主任司祭)の被災地の祈りと心—



定価2,000円です。

ご希望の方は
有吉までお願い
します。

TEL

0940-32-9774

原発の是非

— 原発と核爆弾はどちらが危険か — (2)

さよなら原発！北九州連絡会

棚次奎介

(北九州市立大学名誉教授)

「原発と核爆弾はどちらが危険か」「だれが考えても核爆弾の方が危険だ！」という声が聞かれそうだけれどどうだろうか。

■原発と核爆弾の共通点は？

- 1) エネルギー産出のための原材料としてウランやプルトニウムという特異な放射性物質を使う。
- 2) 実用の原材料を得るためには高度の濃縮技術を不可欠とする。
- 3) 放射性物質の核分裂連鎖過程を制御し、目的に応じて巨大なエネルギーを取り出す。
- 4) エネルギー産出に至るまでの諸段階で大量の放射性物質を排出する。

結局、どちらも濃縮された「核燃料」を使うので条件さえ整えば自動的に核分裂を繰り返す、たくさんの新しい放射性物質を生み出す。その殆どがこれまで地上に存在しなかった物質である。物理的には不安定な状態なので更に分裂・崩壊を繰り返す。その過程で放射線を出す。安定化すると放射能はなくなるがそこに至るまでの期間は1秒に満たないものから数億年経過するものまで、様々である。原発の第1の危険性は核爆弾同様に原材料（燃料）に由来する。

■原発と核爆弾の相違点は？

- 1) 核爆弾の場合は、核分裂の連鎖反応を引き起こすこと（核分裂の暴走）で一瞬のうちに巨大なエネルギーを発生（爆発）させる。原発は核分裂の暴走を抑えることで、定常的なエネルギーの取り出しを行う。しかし、これは綱渡りのようなもので暴走寸前の状態（臨界状態）を何とか維持していることを意味する。福島第1原発事故のように一度核分裂反応の暴走が始まるとそれを抑えることは非常に難しくなる。これが原発の第2の危険性である。そうした危険を顕現させてしまう要素が存在する場合もそれを危険性に加えるべきであろう。運用管理の問題や現場の操作ミス、あるいは地震・津波等自然災害が事故発生

の引き金になる場合がある。これらは原発の第3の危険性である。

- 2) 核爆弾が核の戦争利用であるのに対して原発は核の平和利用と言われている。しかし、「平和」と「安全」を切り離して考えることはできない。安全が脅かされる原発は平和利用とはいえない。原発は不安にかられ穏やかで平和な気持ちにはなれない。だから、原発建設に際しては賠償金などで自治体・住民に多額の力ネがばらまかれ、安全神話が吹聴されるのである。そこには平和利用というお題目とやらは現実が存在する。

- 3) 原発で燃料として使われる1日のウランの量は広島に投下された核爆弾で爆発した量の約3〜4倍と言われている。また文部科学省によると、福島原発事故で外部に拡散したセシウム137の量は、広島原爆168個分に相当する。そして未だに高濃度の放射性物質を含む汚染水が海に流れ続けているのである。核爆弾は一瞬のうちに放射性物質が空中にまき散らされ、ゆっくりと拡散されていく。放射性物質が外に漏れ出るのを抑えたいので封じ込めができていない。

事故がなければこうした問題はないのかといえどもない。原発を運転するだけで、処理方法がわからない使用済み核燃料を含む核のゴミを大量に生み出し続ける。近い将来、手の施しようのない立ちすくみの事態が訪れようとしている。大量の核兵器と原発由来の核のゴミ。未来の世代へ残すにはあまりにも過酷でおぞましいものである。

原発と核爆弾はどちらも人類と共存できないことは明らかである。どちらも世界中からなくしたいし、なくすべきだ。

「だれが考えても核爆弾の方が危険だ！」とは言えないだろう。

編集後記

1面にも書きましたが、拙紙「共に生きる」が4年目を迎えました。この間、様々なご意見をいただき編集会議でも議論を進めてまいりました。大切なことは、現実社会の出来事、特に平和と人権に関する事柄について紹介していくことが「共に生きる」紙のスタンスということです。今号は、各方面から掲載してほしいとの要望を受け、紙面上でお伝えできなかったものもありました。ご容赦ください。ところで、政治の動きには目を離せません。憲法9条を空洞化しようと着々と布石を打ってくる安倍内閣ですから、抗い続けねばと思います。真の平和への努力を惜しみ無く果たしましょう。(瀬下)